

三重大学冠講座

三重大学「夏休み自由研究教室」

1 目的

「四日市公害と環境未来館」で環境問題を学び、四日市港「うみてらす14」と中部電力「川越電力館テラ46」を見学し、環境について考える。

夏休みの自由研究のテーマとして「四日市港の環境」「電気エネルギー」を取り上げ、研究発表の機会とする。

日本の昔話を紙芝居で実演するのを観覧した後、貼り絵と折り紙で、自分たちで紙芝居を作る。最終日には、紙芝居を元に参加者全員で劇の発表会を行い、紙芝居の教訓を学び、参加者同士の交流を楽しむ。

2 実施日

平成27年8月12日(水) 11:00～15:00

平成27年8月19日(水) 11:00～16:00

平成27年8月26日(水) 11:00～15:00

午前は幼児・小学生低学年対象、午後は小学生中高学年・中学生対象

3 実施場所

「四日市公害と環境未来館」研修・実習室 および
四日市港「うみてらす14」、川越電力館「テラ46」(19日の午後のみ)

4 実施内容

(1) 幼児・小学生低学年対象

8月12日(水)

浦島太郎の紙芝居朗読(NPO法人 ハートピア三重)を行った後、参加者自身で折り紙を使い、紙芝居の場面を共同制作していく。

8月19日(水)

前回同様、全参加者で折り紙を折って、画用紙に貼り付け、紙芝居の場面を共同制作していく。制作した紙芝居を、みんなで朗読する。

8月26日(水)

前回制作した紙芝居を元に、参加者とスタッフとで浦島太郎の劇を発表する。参加者の男の子は全員が浦島太郎役になる。参加者の女の子は全員が乙姫さま役になる。カメ、村の子どもたち、浦島太郎、乙姫さまのリード役は、スタッフが務める。

(2) 小学生中高学年・中学生対象

8月12日(水)

四日市公害の教訓から学ぶ持続可能な開発のための教育(ESD)を学ぶ。

四日市港の歴史と役割を探る。

私たちの暮らしと電気の関わりを考える。

(実験) 電気を作ってみる。

豆電球を光らせる。

人力発電自転車を漕いで発電する。

8月19日(水) 野外学習 (バスにて移動)

(見学) 四日市港ポートビル「うみてらす14」

四日市港の歴史と現状を学び、四日市コンビナートとの関わり、伊勢湾の環境について学ぶ。

(見学) 中部電力川越発電所・川越電力館「テラ46」

発電の仕組みと現状を学び、エネルギーと環境について学ぶ。

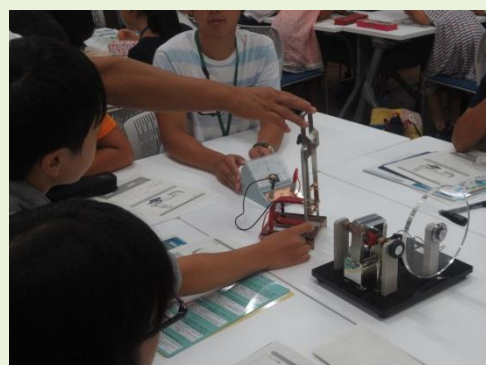
8月26日(水)

野外学習で学んだことおよび環境を守るために私たちが取り組むことを話し合い、その結果をまとめる。

まとめたものをグループごとに発表し、参加者や保護者の方々、スタッフ、講師の先生方に聞いてもらい、学んだことを共有する。

(終了式) 修了式で参加者全員に終了証書が授与される。

8月12日(水)の教室の様子





8月19日(水)の見学の様子



8月26日(水)の教室の様子





5 成果と課題

全3回の講座を通じて、環境保全の大切さや公害は絶対に繰り返してはいけないことを後の世代にも語り継いでいきたいという意識をもった子どもが生まれたことは、講座実施の効果である。また、体験や実験からエネルギーの大切さを学べた子どもが多くいたことも講座の目的を具現化している。

作業や話し合いをする中で、参加者同士の交流があり、環境やエネルギーについて意識の共有がみられた。

幼児の部では、広い意味での環境を考える場であったが、グループ同士の交流や発表の場面でもう少し活発性が発揮できるよう検討していきたい。

6 資料

参加者募集チラシ（別紙1）

教室前掲示ポスター（別紙2）

講座を報道する新聞記事（別紙3）

参加者で制作した紙芝居および研究発表用模造紙（作品）

活動の記録（ビデオ画像）